

2019年9月8日（日）仁志の森（ときがわ町）下草刈り作業

期 日：2019年9月8日（日）
場 所：仁志の森（ときがわ町）
参加者：10名
天 候：晴れ（27℃）
報告者：服部保典

台風が近づく中ですが、天候は持ちそうなので、仁志の森の下草刈りを実施しました。



カエントケ(猛毒注意！)

【ハチ対策】

夏の草は恐ろしい勢いで伸びますので下草を刈らないと、ツツジなどの低木はすぐに隠れてしまいます。そして、この時期は蜂が多いので、気をつけて作業を進めます。スズメバチは近づくと顎を鳴らして警告してきます。刺されないためには、じっとして、静かに離れることです。草を刈っているときに見つけたら、早々に逃げましょう。なお、アシナガバチやジバチは、警告なしに襲ってきます。特にジバチは執念深く追いかけてきます。そうなる諦めるしかありませんので、救急箱の位置を確認しておきましょう。刺されたら、ポイズンリムーバーという注射器のような道具で毒を吸い出します。蜂の毒に抗体を持つ人は、アナフィラキシーショックというショック状態に陥ることがあります。命を落とすこともありますので、早い対応が必要です。「エピペン」というショック状態を和らげる注射器がありますので、ショック症状を起こす可能性のある人は、病院で抗体があるかどうかチェックを受けておいたほうが良いと思います。（エピペンの購入は、医師の処方箋が必要です。）

【下草刈り】

下草刈りは、下から上に進めていきます。上から下に刈ると刈りにくいからです。また、草に隠れて足元が見えません。9月に入りましたが、まだまだ暑く、すぐに汗が噴き出てきますので、水分はこまめに取りながら作業を進めます。休憩をはさみながら、1時間半ほどできれいになりました。



下草刈り作業前



下草刈り作業後

【トリガーカメラの設置】

故障していた動物観測用のカメラが修理から戻ってきたので、林内に設置しました。メーカーに聞いたところ、明確な故障理由はわからないとのことでしたが、高温多湿な状況がよくないとのことでしたので、とりあえず、ビニールで覆ってみることにしました。前回設置時には、シカやヤマドリが映っていました。ただ、他の鳥類は動きが早く捉えきれないのか映っていませんでしたので、疑似餌を設置して、鳥が写らないか試してみることにしました。

100均ショップで売っている、小麦で作った粘土をこねて、青虫を作り、カメラの前にセットしてみます。粘土は、しばらく柔らかい状態なのでカメラに映らなくても、くちばしで啜れば跡が付きまます。そこからどんな鳥が来たのか同定できればと思います、カメラ外にもいくつかセットしておきました。今回、何か映ってくれることを期待しています。



トリガーカメラ(奥)と疑似餌(手前)

【拠点の整備】

作業の後の休憩場所のデッキには床と角材しかなく、座れる椅子があったほうが良いということで、ヒノキの丸太を切り出して、ベンチを作ることとしました。切り倒したヒノキの皮をはがしてみると、面白いようにキレイに剥けます。皮を舐めてみるとほんのりと甘く、シカが木の皮をはがして食べる理由が分かった気がします。とりあえず、乾燥させるため林内に放置して、今後ベンチに組み立てます。



倒したヒノキ



簡単につるつるに剥けます

【山の様子】



オオカマキリ



ミドリヒョウモン



ヤマトシジミ



ネコハギ



モミジガサ



ムラサキホコリ(変形菌)